

当園ではこの度、平成30年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

<p>一人ひとりの幼児を大切にし、心の豊かさ・明るさ・秩序責任、土と風と太陽に親しみ、より丈夫な身体を育成し21世紀の社会に貢献し得る人格の基礎づくりを指導しています。</p> <p><input type="checkbox"/>協同と自主自立の精神を養う</p> <p><input type="checkbox"/>豊かな情操と感覚を養う</p> <p><input type="checkbox"/>創造性と思考力を養う</p> <p><input type="checkbox"/>健康で明るく、心の豊かさを養う</p>

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ●教職員の育成 ●子ども達への指導とかわり ●教員同士の情報共有 ●防災訓練の質の向上 ●安全管理体制の強化 ●地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 教職員の育成	研修から得た知識やアドバイスを伝えあい、実践して保育に取り入れ保育レベルの向上を目指す。	B 研修の回数や受講数は例年通りで、これまでと変わらず確保できている。研修後には、受講内容を互いに伝えあい共有を図っている。その結果、以前の研修等で学んで良かった事などを引き継いで保育に取り入れている。行事前などで予定が合わず研修に参加できないケースもあったため、今後は園行事との調整も考慮して、研修に参加していきたい。また、今年度は研修の報告について不十分なところもあったため、全員での共有する時間の確保に重点を置いて、取組みを継続していく。
2 子ども達への指導とかわり	子どもたち一人ひとりの特性の把握に努め、教職員全員で指導に関わり柔軟な対応を心掛けていく。	A 教職員全員が全園児の様子を見るように心掛け、少しの変化にも気付いて声をかける等する事で、子ども達も全教職員に安心して関わることが出来ている。新任の先生の子ども達への関わり方について、先輩教職員が指導にあたる中で、教職員も一丸となって育成に注力し、自身の声掛けの仕方等も見直すことに繋がった。子ども一人ひとりにあった援助や言葉かけをするとともに、集団で生活できるように導くことも大切に取組みが出来ている。他のクラスの子どもにもより柔軟な対応ができるように引き続き心掛けていく。
3 教員同士の情報共有	十分な意見交換の場を確保するように園全体で努め、連絡伝達漏れ等を未然に防いでいく。	A 毎日職員会議を行い、その日1日の出来事や情報の共有を行っている。全教職員が各クラスの状況把握に努め、子どもの様子などについて話し合う時間を確保し細目に伝えあっている。改善すべき点などを含めて意見交換を行い、その後の保育に活かすことが出来ている。職員会議の時間以外にも連絡を密に行うことで、伝達漏れをより防げるように努めていきたい。

評価項目		取組み内容	取組み状況
4	防災訓練の質の向上	災害発生時の事前準備や避難方法を園内で再確認し、子どもたちの防災意識向上をねらいとしていく。	B 今年度も継続して毎月1回避難訓練を実施できた。災害が増えている背景もあり、訓練の際は以前より具体的に意識を持って取組む事が出来た。以前に誤作動で警報機が鳴ったことがあったが、訓練が定着してきていることもあり、その際ハンカチで口をふさぎ避難姿勢を見せる子ども達の姿も見られた。普段からなぜ頭を守らなければならないのか、なぜ口にハンカチを当てなければならないのかといった理由を分かりやすく伝えるようにしている。職員に加えて、実際にその現場で働く消防士や救急隊員の方などから話を聞く機会を作っていきたい。
5	安全管理体制の強化	遊具使用時は教職員が必ず付き添い、園内で点検の流れを定めて安全管理に努める。	B 遊具使用時は教職員が必ず付き添いをして見守り、危険な時は声をかけて注意を促しているため事故やケガの発生を防ぐことが出来ている。特に鉄棒や大きなすべり台は全教職員が注意を向けるように意識している。また、走ったりボール遊びの際、自転車などを使う場合はしっかりと周りを確認するように呼び掛けている。一方でおもちゃ類の破損が見られたり、点検が不十分である箇所も見られた。遊具の裏やねじなどの細かいところの点検には細心の注意を払い、事故や怪我が発生しないように、園内で点検の流れを定めて実行していきたい。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	未就園児の参加を促す企画を継続して実施し、園の活動内容を広く地域へ発信していく。	A 土曜の保育後に園庭開放やプールの開放を実施している。また、希望する保護者に向けて、園ではいつでも見学に来ていただける体制を整えることを意識して取り組めた。園庭開放等に参加された方には、その後の運動会や夏祭りのイベントなどについてもお知らせを行った。その結果、たくさんの未就園児に来園していただき、入園にもつながる良い結果となっている。戸外遊びについて、時間を区切って異年齢児間での交流機会を増やす等、メリハリを持たせる取組みを行っていききたい。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の質の向上	研修などから得た知識を互いに共有し、実践に取り入れて保育スキルの向上を目指す。
2	子ども達への指導とかわり	子どもたち一人ひとりの成長に合わせて、教職員全員が柔軟に対応し声掛けを工夫していく。
3	教員同士の情報共有	意見交換の場を確保するように園全体で努め、引き続き教職員間の意思疎通を円滑なものにしていく。
4	防災訓練の質の向上	子どもたちの防災意識を高めるため、災害発生に備えた準備や避難方法を再度園内で見直していく。
5	安全管理体制の強化	遊具使用時は教職員が必ず付き添うこととし、園内の点検箇所とルールを定めて安全管理に努める。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	より多くの方々に来園いただけるようなイベントを実施し、園の取組みを地域へ継続発信していく。

V. 学校関係者の評価

いろんな行事や発表を見せてもらう中で、子どもたちの頑張っている姿や成長した姿が毎回見られ、日々指導にあたってくださっている先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。もちつきやそうめん流しなどの日頃体験できないことを体験でき、子ども達も楽しそうに取り組んでいました。夏祭りも初めてでしたが、子ども達の喜ぶ姿を見ることが出来て良かったです。

今年度の役員は大半が経験者ということもあったため、一年を通した流れを理解しており、円滑な園運営が展開出来たと思います。その上で経験者からの不満や改善点を求めていけば、さらに良かったのではないかと考えられます。毎年顔ぶれも変わっていく中で、従来の方法を守りつつ残していくところ、あるいは新しく変えていくところや挑戦したいことなどを、先生方と役員で意見交換できる場を持ち、大切にしていきたい。また、先生方が役員に求めること、例えばこういう場面はこうしてほしい、こんなサポートをしてほしい等を共有していきたい。さらに役員の仕事とはどういうものであるかを役員以外の保護者にも知ってもらうことで、分担すべき作業があるか等を検討し自主的に関わりを持つ方が増えてきたら良いと思います。

<後援会>

評価項目の設定、取組み及び課題の設定は適切に行われていると感じます。教職員の先生方自身の評価も高く、地域から求められている取組みを把握されて、園で実行されていることが伺えます。幼児教育の無償化等、業界を取り巻く環境が大きな変化を見せていますが、地域に密着した園として、今後も取組みを継続していただきたい。

<外部コンサルタント>

以上